

目 次

はしがき v

第1章 Langacker の視点構図と(間)主観性 — 認知文法の記述力とその拡張 —	中村 芳久 1
第2章 ラネカーの subjectivity 理論における「主体性」と「主観性」 — 言語類型論の観点から —	上原 聡 53
第3章 Subjectification を三項関係から見直す	本多 啓 91
第4章 Langacker の言語観と主観性・主体化 — 事態認知の本質 —	濱田 英人 121
第5章 傍観者と参与者 — 認知主体の二つのあり方 —	町田 章 159

第6章	ナラトロジーからみた認知文法の主観性構図 —「焦点化」をめぐる—	野村 益寛 185
第7章	懸垂分詞構文から見た (inter)subjectivity と (inter)subjectification	早瀬 尚子 207
第8章	英語の無生物主語構文と対応する日本語表現の認知文法的再考	對馬 康博 231
第9章	言語における再帰と自他認識の構造 —認知文法の観点から—	長谷部陽一郎 269
第10章	お話への入り込みのメカニズム —「主体性」の全容を解明するための1つの試み—	深田 智 305
第11章	主観性と言語使用の三層モデル	廣瀬 幸生 333
索引	357
執筆者紹介	361